

笹川平和財団主催 カレ国連事務次長特別シンポジウム
『国連平和活動に対する日本の能力構築支援
—10年間の成果と今後の課題、日本の協力の在り方—』

藤井比早之外務副大臣 特別講演

カレ事務次長、兼原常務理事、ご列席の皆様、本日は、笹川平和財団主催のシンポジウムにお招きいただきありがとうございます。

カレ事務次長の訪日の機会を捉えて、我が国がPKOの分野で力を入れている、「国連三角パートナーシップ・プログラム（TPP）」をテーマに、このようなイベントが開催されることを嬉しく思います。

国連PKOは、国際の平和と安全を維持するための政策ツールであり、その重要性は何ら変わるところはありません。

他方で、地政学的な競争の激化や、ドローンやAIといった新たな技術を用いた脅威の増加等により、国連PKOを取り巻く環境はますます複雑化し、要員に求められる能力も変化しています。

国連加盟国は、このような現状を認識しつつ、如何にPKOを政治的にサポートし、将来のPKOがどう在るべきか、検討すべきときを迎えています。

昨年の未来サミットで採択された「未来のための約束」では、国連事務総長による国連平和活動の将来に係るレビューを実施することが確認されました。

このレビューが示唆に富むものとなることを期待しつつ、日本として、P K Oの強化に係る国際的な議論の推進に貢献していきます。

また、「P K Oの将来に係る独立研究」は、今後の方向性を検討する上で重要な指針を与えるものであり、著者の一人であるキハラハント教授の御貢献に敬意を表します。今回のシンポジウムを含め、有識者の皆様が、P K Oの将来に関する国際社会の議論に積極的に関与していることに感謝いたします。

私は、先月、ドイツのベルリンにおいて開催された、P K O閣僚級会合に出席し、国連P K Oが抱える脅威や課題に如何に対応し、P K Oの将来がどう在るべきか、各国関係者と議論してきました。

日本の取組として、より実効的なP K Oを可能とするため、①T P Pの下での訓練・能力構築支援の推進、②P K Oの強化に係る国際的議論への貢献、③「平和の持続」に向けた全体的なアプローチの推進の3つの柱から成るプレッジを発表しました。

また、第3位のP K O財政支援国として、P K O予算への義務を果たしつつ、任意拠出による支援も行い、P K Oがより効率的・実効的なものとなるよう尽力するとの意思も表明しました。

日本は、閣僚級会合プロセスの共催国として、ウルグアイでの準備会合を共催した他、その他の会合での知的貢献や財政支援を通じ、本会合の成功に貢献したところです。

本会合を通じて、国連加盟国がPKOの更なる強化に再コミットし、団結した政治的サポートが重要と確認したことは大きな成果であったと考えます。

閣僚級会合のプレッジでも支持を表明したTPPは、多様なステークホルダーが協力し、PKO要員の能力向上に取り組む枠組であり、国際的なパートナーシップを体現するものです。

今回の閣僚級会合では、日本を含む17か国がTPPへの支援を明示的に表明しており、その他にも多くの加盟国が人的・財政的貢献を継続しています。

立ち上げから10年を迎える本年、TPPが地理的にも分野的にも拡大し、このように多くの賛同国を得て、大きな訓練枠組に成長したことを嬉しく思うとともに、カレ事務次長や伊東マネージャーを始めとする、TPPチームの尽力に敬意を表します。

日本としては、PKOミッションが展開する現地のニーズに柔軟に対応し、ミッションの実効性や要員の安全・安心の向上にも資するTPPは、PKOの将来を考える上で、鍵となる取組と考えています。

引き続き施設訓練や医療訓練に自衛官を教官として派遣するとともに、女性教官の派遣や、爆発物対処訓練やEラーニング等の導入を通じて、訓練の拡充を図っていきます。

また、昨年、共同訓練を実施した豪州や韓国といった訓練提供国、カンボジアのような訓練ホスト国とも連携し、質の高い訓練を提供していきます。

要員の安全・安心を確保する観点から、ウガンダに所在する国連C4ISR学校での、無人航空システム（UAS）対策訓練や、医療サービスへのアクセス向上に資する遠隔医療事業も引き続き支援します。

更には、AUが主導する平和支援活動（AUPSO）が、アフリカの平和と安全の維持に重要な役割を果たしていることから、TPPの下での、AUPSO要員の訓練も引き続き後押ししていきます。

PKOミッションの展開国や要員派遣国の大半は、グローバルサウスの国々であり、日本としては、これらの国々との連携を強化する上でも、国連PKOへの支援は重要と考えています。

「PKOのための行動（A4P）」や「A4P+」といった国連PKOを強化・改善するためのイニシアティブを支えつつ、国連PKOの効率性・実効性の向上に向けた取組を継続していきます。

本シンポジウムの盛会を祈念するとともに、この後のパネル討論を通じた議論が、今後のTPPの発展に寄与することを期待します。

御清聴ありがとうございました。